

11 教員組織

進捗状況報告

文学部が独自に設けた人事規程に基づき、公平かつ透明性の高い人事を遂行している。2005年度、2006年度の新任人事についてもその規程を適切に運用した。したがって、目標については概ね順調に達成されているが、さらなる努力を重ねていく。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

なお、2005年度の認証評価で指摘のあった、歴史学分野では近代史・現代史の教員を採用することができた。

学内第三者評価

公平かつ透明性の高い人事をめざすという姿勢が評価できる。その方針が、2005年度の認証評価で指摘のあった歴史学分野での担当者の偏りを含めて教員のバランスの改善に役立っているのかどうかについての検証が望まれる。

なお、特別委員からは以下の意見があった。
・認証評価の「歴史学分野に近代史・現代史を担当する教員がないという問題点があるが、2006～2007（平成18～19）年度の新規採用で解消の見込みである。（文学研究科と共通）」という指摘に対する対応が必要である。